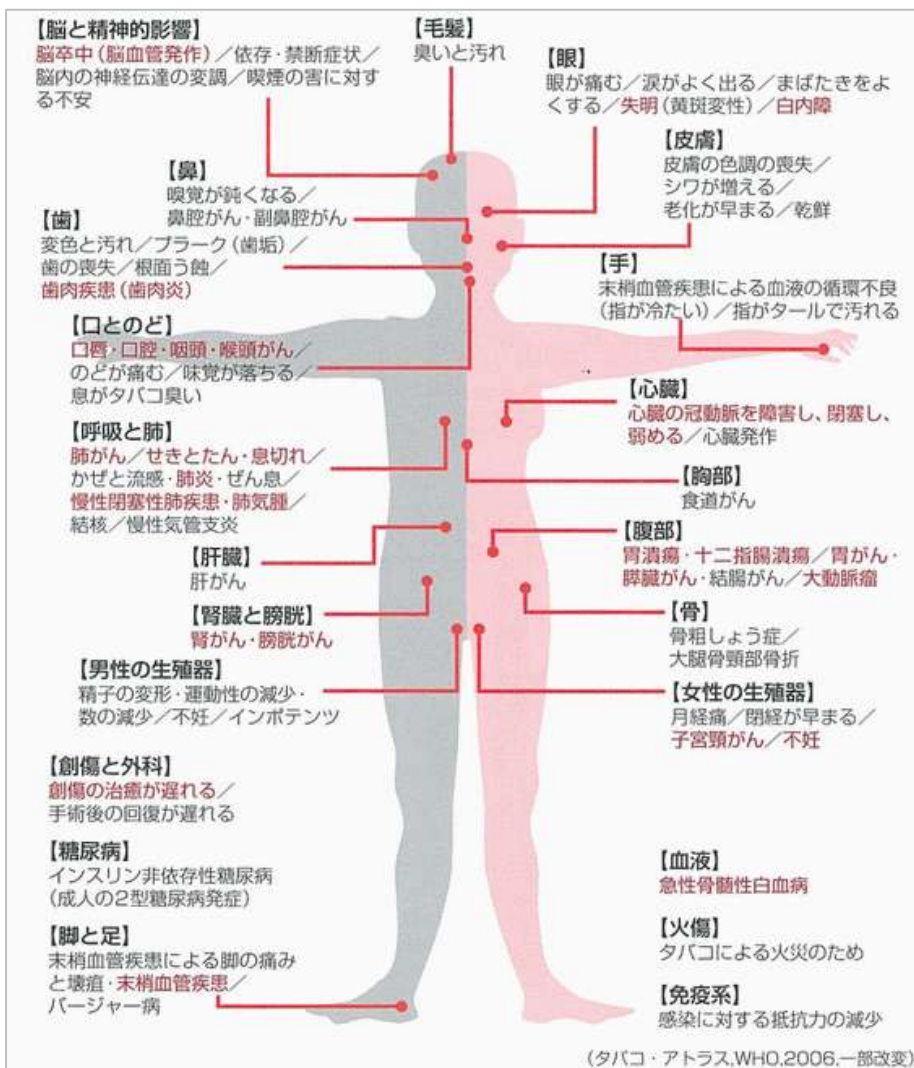


週刊 タバコの正体

正しいタバコの知識を持っている人は、タバコに手をだすことはないでしょう。そして、家族や親類、それに身近な人たちのなかに喫煙者がいなければ、おそらくタバコに興味を持つこともないでしょう。しかし、本当のタバコの姿を知らないあいだに、まわりに何人かの喫煙者がいたとしたらどうでしょうか。タバコに興味を示すのが当然の成り行きかも知れません。

タバコのない環境で生活していればタバコの被害にあわずに済んだところを、たまたま運悪く、タバコの事を知らないまま、まわりの喫煙者の影響でタバコを吸い始めてしまったとしたら、とんだ災難にあったようなものです。タバコは「百害あって一利なし」と言われるほど有害ですから、喫煙者はタバコの害の被害者だと言えるでしょう。

ところが、「自分は被害者」だと認識している喫煙者はあまり居ません。というのも、毎日タバコを吸って、体調が悪くなるような事はありません。それどころか気分が落ち着くぐらいですから、タバコの被害をこらむっているとは感じず、むしろタバコのお陰で毎日快適に生活できていると思込んでいる人も多いと思います。喫煙者をこんな感覚にしてしまうのがタバコのいやらしいところです。



しかし、左図を見て下さい。外見上も自分自身でも自覚症状がないのに、喫煙者はほぼ全身にわたって、これだけの被害をうけています。

ただ、この被害の程度は毎日、本当に少しずつなので、何十年か後に病気になるまで被害を受け続ける事になるのです。そう思うと、やはり気の毒な被害者ですよ。

こんな被害をうけないためには、吸い始めない事が一番ですが、吸い始めてしまった「被害者」は、まわりの人が助けてあげるべきではないでしょうか。

産業デザイン科 奥田 恭久